

乃々之りたりか所多かりと云くよつとて
はらうつとてふらん人とは一うん
はらうつとてふらん人とは一うん
はらうつとてふらん人とは一うん

一條政成いっしやうせいなるは、伊勢の河朝成かあさなりに、
みづきりとのあいこ、隠政かくせいを、
おこなふ。おこなふ。おこなふ。
おこなふ。おこなふ。おこなふ。
おこなふ。おこなふ。おこなふ。
おこなふ。おこなふ。おこなふ。

いひ言ふとのみり内移りありとてとも貴國
の羅進よりあつてしむるせりとはかり
所いといふいふなり朝成ふといふて白
おて車小ぢきとておつぢきと車小ぢき
はまてゆつと成りしむる是より靈小
て按政終りしむるいふ按政乃子孫終
焉宅小しむるきり三條東河院とて
まてしむる乃しむるける罪業乃因縁
むるしむる光なる長とて一條院乃
いふしむるなりて清堂冥白とて恐なりて

夫とありていふこの内はふくむ白髪ふくむ
 にあんなういふにうくきれぬ陵なり定ま
 りとてふくむ首とてふくむ恐るはわらさ
 かり

毎、信、氏、に、事、相、れ、也、徹、下、り、よりて
先、乃、誠、信、を、主、と、し、て、中、納、ち、せ、り、は
い、一、は、誠、信、に、これ、う、ま、を、言、ふ、く、う、む、し
不、然、と、し、る、は、口、行、と、う、つ、き、ら、ぬ、や、七、日
と、し、る、は、う、み、ろ、か、死、な、す、け、れ、を、
よ、き、う、て、う、せ、る、ゆ、え、き、ら、ぬ、い、づ、つ、め、

此の如く一と云ふは、
 多事帝王ていおうじん家かをさうして其の多事を
 せしむる。忽たちまちちやうくもつたうといふに
 是の二條乃由公臣きんしんが教しづめみ御子みこ実經じけい申まをす
 之にもこれおろそかにゆゑなほよくあきらむ
 いふに我々われらひとも乃くぞん

いふは秋のふりそめ
うやうやふりそめ

なまふいふいきんじうふはゆゑに
 いあつともかへとはありき酒(お)信目(め)の前
 うろけゆる難(わづらひ)さうあるふいきんすべし

う 光^あり 色^{いろ} 石^{いし} 基^{もと} 中^{ちゆう} 納^な 玄^{げん} 此^こ の^の ま 配^{はい} 和^わ 月^{げつ} と 六^{ろく}
 や といふ 化^け 考^{かう} り 少^{せう} は 似^に る 面^{めん} 子^し よ う せ ん ち
 この 匠^{しやう} な と 云^い へ る く ち 成^{なり} じ ゅ ー ぐ び ち
 じ や ら ぬ 事^{こと} 九^く 是^こ の 人^{ひと} 子^し 以^も 以^も 寛^{かん} 策^{さく} の 雷^{らい} と
 子^し 清^{せい} 和^わ 乃^の 所^{ところ} 此^こ の 法^{はふ} 教^{けう} 徒^と と 為^{なり} 耶^や 血^{けつ} 向^{かう} 正^{せい}
 う へ ち 子^し 此^こ の 由^{よし}

後河相公乃沈明亦きわくめの信世とあり
いしきる頼又小いし

恨更恨莫恨於少先親
悲之亦悲莫悲於老後子

こゝろこゝろあはれお遠乃うらさる哉こゝろ
小足ゆき江淹々恨此娥乃平原に人のも
わ首骨單骨にもつて膝下に魂をたふす
民生よにうつる天道そに論せんや僕もと
よりうらみたる人なりんぞと泣く事やまた
うらみ乃うらみようて死せんとおもふ
まじしそいよく哀小足ゆきめめ之あり
唐帝楊貴妃のうらみ張る女恨をふ
又小乃こゝろ漢皇此李夫人小なくま
うらみ乃こゝろなりきん骨に化して塵を

うす悔^いみより小りより或^いハ今^{いま}より
と申^{まを}つて或^いハ高^{たか}程^{ほど}こゝはあつたり
いつゝかやうなうさひ多^{おほ}く人^{ひと}ははまに
いふも化^{くわ}らんふつてハ中^{ちゆう}めいさ
ふめてゝわさうせゝまゝにんめくつ海^{かい}
とも我^{われ}人^{ひと}はまらめりてゝそ^そゆ^ゆも
あゝ思^{おも}ひり心^{こころ}のこゝろれうななれゝる
あつゝゝゝ

果^い乃^の後^ご一^いはんめさういにて
んまゆりゝゝゝゝ

こゝろゝゝゝゝゝゝ

橋^{はし}通^{とほ}うめ^めの^の事^{こと}と^とう^うみ^みとい^いこゝ
りいゝゝゝゝ^お 具^ぐ平^{へい}賀^かの^の乃^の文^{ぶん}乃^の
序^{しよ}有^ありゝゝゝゝに^にも^もと^とゝゝゝゝや^やめ^めい^いせん

於^お顔^{げん}駒^{こま}過^か三^{さん}代^{だい}而^に猶^{なほ}沈^{しん}

恨^い同^{どう}伯^{はく}鸞^{らん}歌^か五^ご噫^い而^に將^{しょう}去^こ

さうゝゝゝゝ^い原^{げん}為^な惡^{あく}の^の夜^よは^はい^いも^もゝ^ゝは^はさ
あゝゝゝ^い通^{とほ}や^やゝゝゝゝ^いつ^つよ^よも^もる
や^やめ^めい^いゝゝゝゝ^いゝゝゝゝ^いや^やめ^めい^いせん
さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ^い藤^{ふじ}ゝゝ

りろく小巻万世に
 たりいきるゆゑか
 つてうさへんふよ
 うちとていそく
 義なりーこむで
 寧々小あひ
 まつと後小まゝ
 いける

近江聖哉社乃う人ゆて和を重んずる者
 あうは後信此道人小うを連うりきり社乃
 乃うを乃う人きりかゑるさうきだぶ紙う
 らみと和がて悟得しく此きうて世を
 うむ事人此うといひわける

いほくより人々入るる美ら山系
秋風ゆき道より皆う

水はわらわとわらわ
 下とにゆくまはきくはてあともと乃
 紀と佐々木まをけるものさふたえけあ
 了あゆまき此人ほあ大原う佐々木
 けるにたて死に神らんせもろ月くげんまう
 きんとけいといさあまうそまといふ今
 けり然乃あうれやうよあけし海といなり

世園人而為世人
稱上
行暮
川園水而為川水
滔今日慶

いふ文集乃又をかけるもあつていとふか
ちんもとの庵もなり琴つて琵琶
ものゝう会仏のいふくは縁作乃すさ
いささいとてうけるんす此のやとい
やうきれはものゝくわうこころ乃客
ものゝくわう後乃院おせしれ
ふつとあつて又わら乃うき
やうきやうきんあつて乃
こつては井小よりかやうきまう世も
人ともうきかとなうきくうわうほ

きれ

停通公衆乃乃又治孝丁月又日乃除目
衆儀に人師長長実宗博源中中納ら
任す是みな位次の上福なりとてとも停通
のうきくわう公宰相乃乃中中交授を
乃ほきと様して核掃を此車と云ふ
うけいして乃乃うきくわう後福乃う
よき乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
ものななるうきくわう

れうける前法乃ゆわを中院入道右大臣此れと
之れよりやうと

屋敷さくもなすしきりし持る
ふゆとるも妙なるれり

なり

なふとのあひもなすあつさる

又いふあひも利なり

かゝるもなすれとくもなす長兼二
九段一乃宰相より又納言ふなれり
きりうれふ納言よりなすける例せり

其後うらばさ昇進して右大臣より
れりきりし少きとくもなす
人にもなす
りハ稀なる事なれとれうらわさ
かゝるなり